

着衣着火を防ぐポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意する。
- こんろのまわりに物を置かない。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しているので注意する。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調節する。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで正しく使用する。



防災品を使用しましょう

- 防災品とは、火がついても容易に着火せず、着火しても延焼拡大を停止する自己消火性を備えた素材で作られた品物のことをいいます。

防災品ラベルは2種類あります



←防災物品ラベル
↓防災製品ラベル



提供：日本防災協会

※ラベルには様々な様式があります。

左：防災品 右：非防災品



- 着衣着火を防ぐため、こんろなどの火気を使用する際はエプロンやアームカバーなどは防災品を身につけましょう。

同じタイミングで着火しても、防災品のエプロンは燃え広がらず、受傷リスクを大幅に軽減することができる。

もしも着衣に着火した時は

水をかける、脱ぐ、たたくなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう！！



問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和6年10月発行



STOP!

STOP! 住宅火災シリーズ① 火災から大切な命を守ろう

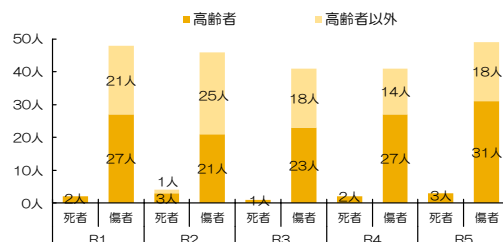
着衣着火

着衣着火とは

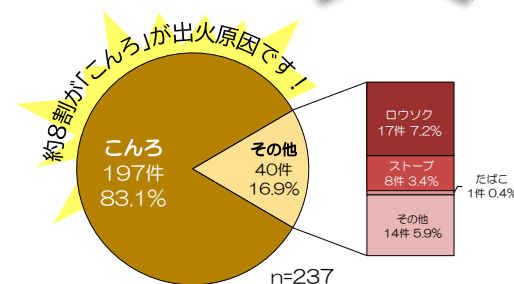
着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が身に付けている衣服に着火したことをいいます。

約8割はこんろが原因

- 令和5年の着衣着火による死者数は3人、傷者は49人発生しています。
- 死傷者が発生した着衣着火件数の約8割がこんろです。



着衣着火による死者数・傷者数
(令和元年～令和5年 住宅内 自損は除く)



出火原因別の死傷者が発生した着衣着火件数
(令和元年～令和5年 住宅内 自損は除く)

東京消防庁

死傷者が発生した着衣着火のうち「こんろ」を出火原因とする火災は約8割を占めています

過去5年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します(令和元年～5年 住宅内197人中、死者9人、傷者188人)

顔・頸部(8人)

90歳代女性は、自宅の台所で調理をしていた際に、エプロンの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した(中等症)。

手・腕(68人)

①20歳代女性はコンロで調理中に着衣に火が燃え移り、同居人20歳代男性に初期消火を依頼した。男性も初期消火中に受傷した。(男女ともに中等症)

②20歳代女性は、調理中ガステーブルの奥に置いてある調味料を取ろうとした際に、着ていた割烹着の袖がこんろの炎に触れて着火し、右手の甲を受傷した(軽症)。

胸部(6人)

60歳代女性は、調理中の鍋からはみ出したこんろの火が着衣のすそに着火し、上半身に掛けて燃え広がり受傷した(重症)。

腹部(11人)

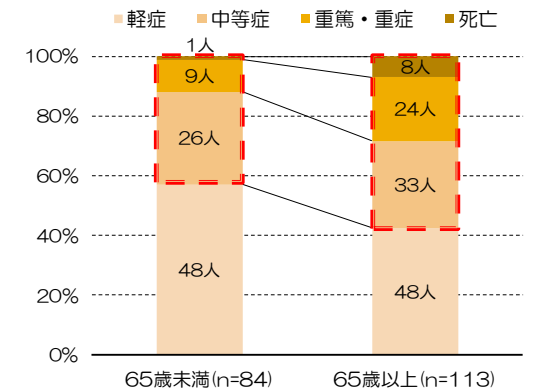
30歳代女性は、哺乳瓶を煮沸消毒中、こんろ上部のフックに調理器具をかけようとした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

背部(22人)

70歳代女性は、調理のためこんろに火をつけ、後ろを向いたところ着衣に着火し受傷した(中等症)。

※ 部位については、
その他部位82人を除く

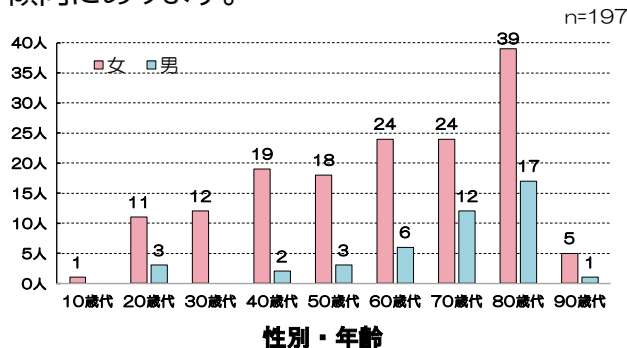
高齢者は素早く消火ができず、重症化してしまう場合があります。



受傷程度別死者数
(R1～R5住宅内 自損を除く)

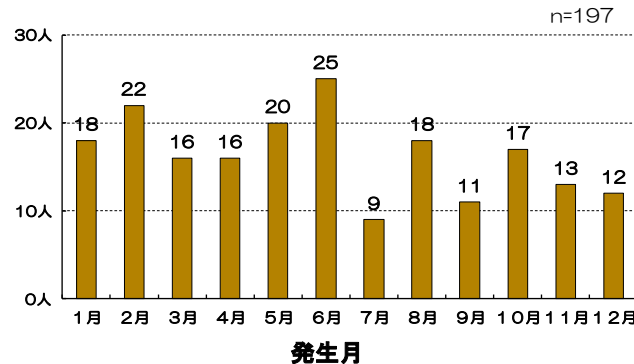
女性に多い

こんろによる着衣着火の死傷者は、女性が男性の3倍以上です。年齢では、80歳代が最も多く、90代を除き年齢が上がるごとに多くなる傾向にあります。



生活・服装の変化

こんろによる着衣着火の死傷者は、季節に関係なく発生しています。



調理する時間帯に注意

こんろによる着衣着火の死傷者は、調理する時間帯と考えられる7時台及び12時台、18時台で多く発生しています。

